

PTA 投票結果

2005 年 9 月 12 日

ニューヨーク日本人教育審議会会長
坂本和彦 殿

Cc:
ニューヨーク日本人学校 PTA 会員のみなさま

ニューヨーク日本人学校 PTA 会長
足立高德

前略

いつも大変お世話になっております。また先日は 3 日間に渡る保護者説明会を開催いただきありがとうございました。

さて、説明会でもお伝えしたように、審議会からの説明をお伺いした上での PTA 会員の総意をまとめるために、9 月 7 日（一部会員には 9 月 9 日）に全保護者 175 世帯を対象に投票用紙を配布し、審議会案凍結の是非を問いました。結果は以下の通りでした（上記 175 世帯には保護者でらっしゃらない会員の方は含まれていません）：

- 審議会案（売却リースバック案）を一旦凍結し、代替案を含めて PTA と審議会が共同で解決方法を検討することに

| | |
|-----|-------|
| 賛成票 | 121 票 |
| 反対票 | 8 票 |
| 白紙票 | 18 票 |

この結果に従い、私たち PTA は貴審議会に対して、売却リースバック計画の一時凍結、およびその後の PTA との共同作業による解決方法の検討を要求します。

9 月 5 日の説明会の最後でもお話ししたように、今年になってから何度か行われた審議会側からのご説明やレターにもかかわらず、PTA がこのように一貫して大差で審議会案の撤回または凍結を求める結果となっている理由は、ひとえに売却リースバック以外のオプションを考える余地がない、とする貴審議会の姿勢に対して会員が納得していないことにあります。また、そもそも今日のように審議会と PTA の関係がこじれてしまった原因が、放火事件が起こるまで審議会からの情報公開が十分でなかったことにあることは、安藤大使を始め関係者が等しく認識しているところです。つまり審議会と PTA 間の軋轢の責任は第一義的に審議会側にあります。

私たち PTA は、審議会と PTA が正常な関係に戻り、先生方と協力して真に子供たちのための学校づくりに取り組めることを心から希望しています。そのためには、貴審議会に上記責任をお取りいただき、この度の PTA の決議を尊重して売却計画を凍結していただくしか方法はありません。

どうか、未来を託す子供たちのために、勇気あるご決断をお願いいたします。

早々